

(感度分析の方法)

需要水量を変動させた場合の費用便益比(B/C)を算定し、評価結果への影響を把握する。

事業評価のもととなる需要水量(基本ケース値)に対し、需要水量の予測値を変化させ、B/C が基準値(1.0)を下回る値(基準値分岐点)や、基本ケース値から基準値分岐点までの変動量(許容変動量)について確認する。

感度分析の事例は、第IV編 算定事例「2-1(1).水道水源開発施設整備事業」を参照のこと。

(感度分析結果の取り扱い)

事業の実施に当たっては、感度分析結果を踏まえて、需要水量の動向に留意しながら事業を進める必要がある。

事業実施中において、B/C が基準値(1.0)を下回るケースとなる予兆が見出された場合は、必要に応じて、水需要予測の見直しに基づき再評価を実施する等、事業の見直し(中止を含む)等を検討する。

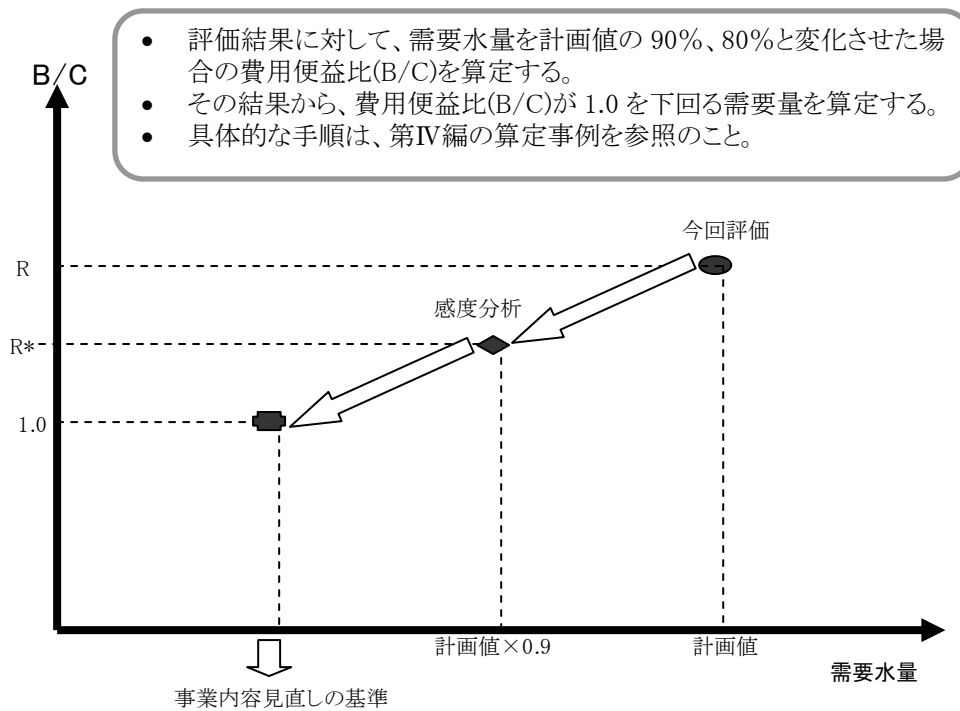


図 I -3.4 感度分析のイメージ